

2025年度 第5回 藤沢市立湘南台小学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2026年2月10日(火) 15時00分から
場 所 湘南台小学校 支援ルーム

出席委員	<p>川口 昇（会長 湘南台地区地域協力者会議前会長） 天野 和美（副会長 湘南台小学校校長） 伊藤 雅浩（湘南台市民センター長） 川野邊 文子（湘南台小学校学校運営協議会コーディネーター） 新美 潤（多摩大学 グローバルスタディーズ学部学部長） 落合 英雄（地域協力者） 河合 恒二（湘南台地区老人会会長） 廣田 きよみ（湘南台子どもの家運営委員長） 栗原 千束（湘南台地区主任児童委員） 千葉 好治（長後・富士見台・湘南台小学校区スクールガードリーダー） 青木 かほり（元湘南台小学校 PTA 役員） 石渡 真理子（湘南台小学校教頭）</p> <p style="text-align: right;">以上 12名（欠席1名）</p>
次第	<p>1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議題 （1）学校評価について （2）その他 4. その他 来年度会議予定について 5. 閉会</p>
	<p>（意見等） ＊3（1）について ～各学年・各教室担当より今年度の振り返り～</p> <p>国際 国際教室は日本語獲得を目指す場所である。学習内容は、学級担任と連携して決めている。ここに通う児童にとって国語は難しいので、リライト版（平易な日本語に書き換えたもの）や、難解な単語を絵で表した視覚教材など、手作り教材を活用している。また、日頃から保護者とのコミュニケーションを密にとるようにしている。</p> <p>湘南台学級 集団を意識して学校生活を送ることができるように、今年是一个の教室で学習や生活をするように環境を整えた。また、職員間や家庭、外部機関と連携し、指導を進められるよう努めている。</p> <p>1年 友だちに優しくできる子、自分のことは自分でできる子をめざして取り組んできた。ペア学習、グループ学習、異学年交流と活動形態を工夫して継続的に取り組んだ結果、他者意識をもてる子が増えた。また、登下校時やプール学習時の見守りや昔遊びなど、地域の人との関わりを通して、自分たちの生活はいろいろな人に支えられていることに気づいた。</p> <p>2年 子ども同士、互いに認め合い、理解しようとする気持ちをもつ子をめざして、会社活動の充実を図ったり、地域の方と関わる機会を増やしたりした。さまざまな人との関わりの中で、相手の立場に立って考えたり、自主的に工夫をしたりする力がついた。何事にもやる気がある反面、自分の思うとおりにいかないと感情的になってしまう児童もいるので、お互いの気持ちを理解して、気持ちのコントロールをできるようにしていくことが、課題である。</p>

3年 人なつっこく、仲が良い学年である一方で、物の扱いが雑であったり、他人の話聞く力が弱かったりする面も見られた。相手のことを意識して行動できる子を育てるために、道徳で集団での過ごし方や決まりを守るということについて考えたり、グループ活動で協力の仕方を学ぶ機会を増やしたりした。その結果、周りをよく見て、人の気持ちを考えて行動できる子が増えた。

4年 相手の立場を考えた言葉や行動をする子をめざして、お互いの考えを話し合う場を多く設定した。その結果、自分の意見をもち、伝わる言葉での話し合いができるようになった。また、異学年との交流の機会を設けた。下学年との交流を通して、相手のことを考える力がついてきていると感じている。

5年 自分で考えて行動することに不安を抱えている子が多く、質問が多い子達であった。そのため、学年全体で子どもを見る意識をもち、「今、何をやる時間なのか」を意識できるような声かけを行った。その結果、各行事では、実行委員を中心に児童自ら動く場面が多く見られた。最高学年に向けて自立した児童の育成に努めたいと考えている。

6年 コロナ禍入学の子達で、指示待ちの子が多かった。そこで、「とりあえずやってみよう。なりたい自分に挑戦しよう」と投げかけ続けた。12月の音楽会で自分たちが作った曲を歌ってから、自分たちがやりたいという気持ちが強まってきた。また、地域との交流を通して、自分たちが必要とされていることを感じることで、自己肯定感が高まった。

ふりかえりを聞いての感想や質問

- ・異学年交流をめざした教室配置だったが、どうだったか？
→行動が違うことで他学年のことを知ることができ、相手意識をもって、行動できることが増えた。廊下の歩き方やマナーを注意したり、自分が気をつけたりしていた。
- ・国際教室で他校の児童生徒が通ってくる状況とはどんな状況？
→市の日本語指導教室を兼ねている。藤沢市には、本校にしかない。高校受験の準備も日本語指導教室で行っている。
- ・学年によって児童のカラーがあり、違いを感じた。その違いを先生がしっかりと受け止めていて、安心した。
- ・地域との交流について、盛んになって嬉しいが、関わりをもつ先生が大変そう。しかし、子どもの笑顔が自分の喜びになる地域の方が多いので、もっと利用して欲しい。
- ・資料が年々良くなっていて、学校や児童、先生のことがよくわかった。
- ・学校内では挨拶ができているようだが、下校指導をしていると、挨拶をしても応えない子が多く、3分の1ほどしか挨拶を返してくれない。
- ・家庭科の授業で火星隊の一員としてとして児童に係わったが、積極的にタブレットで撮影し発表していて自主的に学習していて感心した。

*今回をもって今年度の協議は終了